

十島村教育委員会だより 令和5年8月号

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

【子どもたち、そして教職員もリフレッシュ! 新たな気持ちで2学期を!】

十島村教育長 木戸 浩

台風6号の影響により10日ほど船が欠航し、生活物資が届かず心配されたことと思います。十島村の生活には「汽船もまた道路なり」の言葉を改めて感じたところでした。また、台風が過ぎた後は毎日暑い日が続く、熱中症も心配されることだと思います。水分補給や休憩をこまめに取って、健康管理にも努めていただきたいと思います。

さて、今年も先生方は給食調理員さん方の協力を得て、7月31日と8月2日の2日間、鹿児島市で実施しました「十島村教育研究大会」に出席することができました。この大会は、十島村の先生方が一堂に会し、様々な分科会に分かれて話し合ったり、国の施策の講話を聴いたりする研修会です。全員が直接会って情報交換する機会もこの時だけです。合計11人の外部講師にもお越しいただき、非常に意義ある研修会になりました。夏休みの間に、リフレッシュをした上で「研修と修養」に努めながら、また1歩力量を高めて、2学期からの授業に臨んでいきます。

「体験活動が、その後の礎を築きます!」

～やる気や生きがい、自己肯定感・自己有用感を育む～

夏休みは、日頃の学校生活ではできないことを体験する機会でもあります。子どもの体験活動に関して「虫取りや海・川で泳ぐといった体験が、この10年ほどで大幅に減少している。」ことが、国立青少年教育振興機構の調査で分かっています。

この調査は、2019年に全国の小中高校生の児童生徒約18,800人を対象に実施されました。その中で「チョウやトンボなどの昆虫を捕まえたこと」が何度もある「少しある」と答えた割合は59%で、同じ質問をしたほぼ10年前の81%に比べて、22ポイントも減少しています。同じように「海や川で泳いだこと」は、20ポイント減少、「キャンプをしたこと」は17ポイント減少しているという結果が出ています。

また、20歳以上の成人約5,000人を対象に、「子どもの頃の体験は、その後の人生にどんな影響を与えるか」ということについても調査しています。その結果、子どもの頃の自然体験や友達との遊び、地域活動等の豊富な人ほど、「大人になってやる気や生きがいをもっている人が多く、規範意識や人間

関係能力が高く、道徳心や正義感も強い」ことなどの結果も得られています。

このように、体験は、規範意識や人間関係能力など、人として生きる上での礎を育み、子どもの成長には欠かせないものとも言えます。また、体験は未知との出会いであり、体験を通して豊かな「感動」を味わうことができます。これらの出会いを通して、人は励まされ、次への目標を新たに持つこともできるのだと思います。体験活動の重要性が叫ばれて久しいわけですが、子どもたちと有意義な体験の場を一緒に共有して、親子の触れ合いを深めてほしいと思います。

十島村に来ている山海留学生は、まさにこの「体験活動」を思う存分味わっていると思います。地元の子どもたちも留学生からの情報や交流を通して、更に大きく成長してくれることを期待しています。

「未来にはばだけ」海外ホームステイ

4年ぶりにオーストラリアへのホームステイに5人の中学生・高校生が旅立ちました。14日間、ホームステイや現地の学校での学習を通して英語学習や異文化交流を行います。



（七月八日 南日本新聞掲載）

子供のうた

アカシヨウビン

ぼーんとねおそう
ふとねおそう
木にわたつて赤な
服をきいておきこ
まっ赤な紙ひこうき
あつ赤な紙ひこうき
あつ赤な紙ひこうき
ぼーんとねおそう

宝島小三年 本名 福竹



【新聞に投稿】※学年は投稿時
令和5年7月27日 南日本新聞「若い目」掲載

私五の 験たのた 思が1っ 胸レを
も十か これ通 これ 役ち走 りだっ 私がい 載汽
工年な れ通し 割にり っ視。はは せし 笛が
1ぶり にか して 背に、終り 線計 大会ば 走フ
ルの興 は、少 負エ っ楽 伝、人 旗い ると
をの興 味、し っし っし っし っし っし
を送 児を 国に 興心 興心 興心 興心 興心
りたい 島持 体と がわ はな なが なが
いの 国が 何か った。 だが、 今回
のな 国が 何か った。 だが、 今回
のな 国が 何か った。 だが、 今回
のな 国が 何か った。 だが、 今回

炬火リレーに感動

平島小六年 北山 帆泉



燃ゆる感動 かがしま国体・かがしま大会
十島村 炬火リレー 7月22日～23日



村炬火リレー映像提供



（七月三日 南日本新聞掲載）

子供のうた

ねこ

私をねこが大好きだ
ねこをねこが大好きだ
ねこをねこが大好きだ
ねこをねこが大好きだ
ねこをねこが大好きだ
ねこをねこが大好きだ
ねこをねこが大好きだ
ねこをねこが大好きだ

諏訪之瀬島小四年 長谷川 カエラ

【悪石島で生活してみて】
悪石島3年 島 佑一

僕は、去年の10月に山海留学生として悪石島に来ました。まだ、一年も経っていませんが、たくさんの驚きや楽しみ、出会いなどを体験しました。山海留学に来るまでは、人付き合いや親元を離れる不安で溢れていましたが、島で生活するにつれて、不安はなくなってきました。学校や寮では、与えられた仕事をこなすことや中学三年生としての自覚を持つことなど難しいこともありますが、信をもって挑戦していきたいです。



僕の将来の夢は、車関係の仕事に就くことです。いつかこの仕事に就き、たくさんの知識を蓄えてしまに返って活躍するにもいいと考えています。悪石島に来てから自分の考え方や、人生が大きく変わったと思います。毎日、毎日楽しく、意味のある日になっています。本当に悪石島に来てよかったです。

【諏訪之瀬島小・中学校からのメッセージ】
教諭 松本美沙

諏訪之瀬島に赴任して1年5か月になりました。家族3人を残しての単身赴任。寂しい生活が始まるのかな?、と思っていましたが、全くそのようなことはなく、毎日楽しく過ごしています。毎日家族とテレビ電話をするのですが、「お母さん、そっち(諏訪之瀬島)に行ってから表情が明るくなったね。」と娘に言われました。きっと周りの人たちからの優しい言葉と諏訪之瀬島の豊かな自然が私を明るくしてくれたのだと思います。

昨年1年間は「初めて」をたくさん経験することができました。初めて受け持つ教科の授業、小・中学生が一緒に行う活動、海での水泳教室、島民全員で行う道普請、元気に噴火する御岳からの灰、玄関を開けたら私を見ているヤギ、海だまりで泳ぐカメ、降り注ぐような満天の星空、ほのかに光る蛍等々。諏訪之瀬島に来ていないと全て体験できなかったことばかりです。戸惑うこともありましたが、楽しいことの方が多いような気がします。

初めて来た次の日に、島立ちの生徒さんを見送りました。もちろん名前も知らない生徒さんでしたが、島民全員に見送られている姿を見て、「ここでは島全体で子供を育てるのだな。」「中3を卒業したら必ず島立ちしないといけないのだな。」と思ったのを今でも覚えています。中3で親元を離れることに驚いていましたが、よく考えてみると山海留学で来ている子たちはもっと小さな子たちです。その子たちを島民全体で育てている雰囲気は私には大好きです。そして、その島民の一員としてこれからも過ごしていきたいです。